

サンビオティック資材 スイカ・メロン

施用目的

1. 収量向上
2. 品質向上

施用基準(10aあたり)

育苗

育苗培土に鈴成を5～10%混和

発芽後 週に1回 純正木酢液1000倍希釈、または醸造酢500倍希釈を散布

※チツソ切れに注意してください。

3～4月 元肥

有機百倍 20kg×4袋(N:7.2kg) ※油粕・魚粕・ぼかしなど有機肥料で代用可

鈴成 20kg×10袋(P:16kg)

その他: 土壌分析を実施したうえで、ミネラルの不足は、必ず補充してください。

特に苦土(マグネシウム)、鉄は重要です。ケイ酸も病気を減らします。

苦土石灰と転炉スラグが安く、お勧めです。(堆肥と一緒に施用します)

※カルシウムは、鈴成を施用した場合、通常施用量の半分程度とします。

有機物: 良質な堆肥などの有機物は、微生物を増やし、土壌の団粒化と発根を促進します。

特に土壌団粒化ができていない場合、天候不順に弱い栽培となります。

定植1カ月前にはC/N20～30の堆肥を1～2トン施用します。

理想は植物性堆肥です。

チツソ過多を避けるため、C/N20以下の堆肥は300～500kg程度に抑えます。

ゼオライトなど土改材の施用も検討。

もし堆肥を施用しない場合は、有機百倍と鈴成だけでは、カリが足りないため、

塩化カリや硫酸カリ(20～40kg)などを必要量施用します。

連作障害: 連作障害には、特定のミネラル等の微量要素欠乏、カリやチツソの過多、

または微生物相の悪化が考えられます。

まずは土壌分析をするのが最善ですが、できない場合は、純正木酢液1L、

菌力アップ10Lを1～2トンの水で希釈し、植物性堆肥(五穀堆肥)とともに混和します。

また、農薬を使用して土壌消毒する場合は、再度病原菌が繁殖しないよう、

土壌消毒後にかならず菌力アップ5Lを希釈して灌水します。

3～4月 定植後

菌力アップ 100倍希釈で1週間おきに灌水 4回

※マルチ下に灌水チューブを敷設していない場合は、植え穴に手灌水とするか、定植前に反当たり10リットルを200倍希釈して散布し、耕起畝立てを行う。

5～6月 追肥(三番花に着果後)

有機百倍 20kg×1～2袋(N1.8～3.6kg)

糖力アップ 300～500倍希釈 葉面散布または灌水 2回以上(収穫1カ月前からは控える)

コーソゴールド 300～500倍希釈 葉面散布または灌水 3回以上(収穫直前までOK)

純正木酢液 1000倍希釈 葉面散布または灌水 2回以上(収穫直前までOK)

※すべて混合散布して大丈夫です。コーソゴールドとカルシウム資材は混合できません。

※適度な草勢を維持できるようチツソをコントロールし、収穫まで生き生きとした葉を維持する。

※殺菌、殺虫等の防除をしっかり行い、草勢を維持します。

※炎天下の葉面散布は、日焼けの原因となりますので、時間帯など注意してください。

※灌水量は、天気や肥大を見て調整します。

※生育が前進することがありますので、熟期の判定は注意してください。

※過度の乾燥は、根を傷めると同時に、果実の割れを引き起こすので注意します。

(二番果取りを目指す場合:西日本)

7月 1番果収穫後

菌力アップ 300倍希釈

糖力アップ 300倍希釈

コーソゴールド300倍希釈

尿素 500倍希釈 を混合して灌水(水1トン以上) 4～6回

※1番果は、ひとつ残らず収穫し、畑から持ち出すこと(病害の予防、着果負担をなくす)

※収穫時に枝葉を傷つけない。あらかじめ足場を確保して栽培する。(コンテナなどを置いておく)

※収穫後すぐに殺菌剤、殺虫剤の散布を実施。

※葉色は濃くなく、生長点の勢いを維持するよう、チツソをコントロール。葉の切れ込みが浅い場合はコーソゴールド。葉色薄い場合は、チツソとともに本格にがり。適度な草勢を維持する。

※2番果が着果しすぎた時は、摘果する。(1番果と同じくらいの数量をならせる)

※日照不足やさらに糖度向上を狙う場合は、純正木酢液1000倍希釈を灌水または葉面散布。

以上